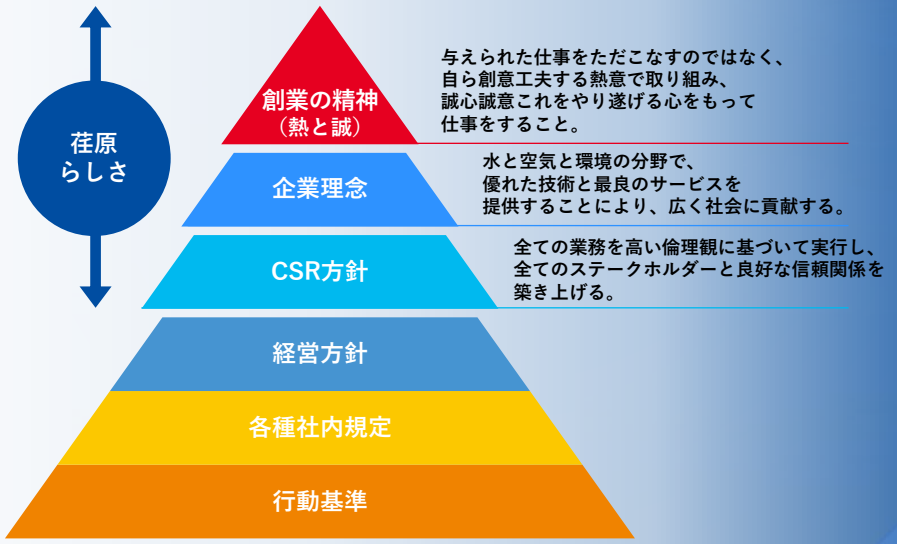
創業の精神

熱と誠

1912年、畠山一清は井口博士の渦巻きポンプ理論を応用し、水道インフラの国産化に挑みました。「日本の近代化に貢献したい」――その“熱と誠”を原動力に、荏原製作所は社会・産業・くらしを支えることを使命としてきました。受け継がれてきた姿勢と、「流れ」をかたちにする技術が、私たちの価値創造の原点です。

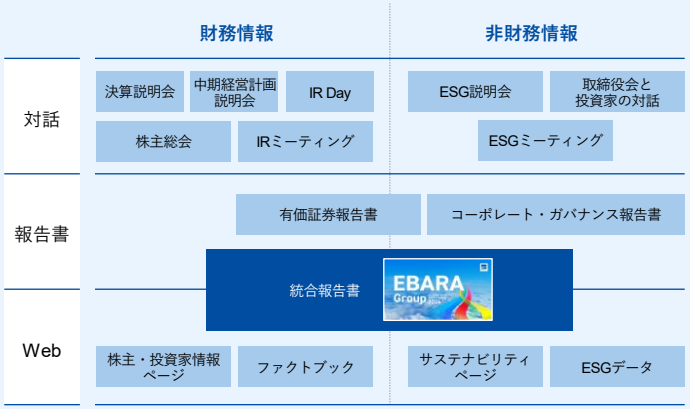
荏原グループの企業倫理の枠組み



編集方針

荏原グループの中長期的な価値創造について、財務・非財務の両面からお伝えすることを目的として発行しています。編集にあたっては、IFRS財団（The IFRS Foundation）による「国際統合報告フレームワーク」と、経済産業省による「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス2.0」、GRIスタンダードを参考にしました。GRI対照表はコーポレートサイトに掲載しています。

情報開示体系



WEB
コーポレートサイト
https://www.ebara.com/jp-ja/

お問い合わせ先
コーポレートサイト「お問い合わせ」をご利用ください。
https://www.ebara.com/jp-ja/contact/

社名表記	「荏原」「当社」は、株式会社荏原製作所単体を示します。また、「荏原グループ」「当社グループ」は、荏原と国内外の連結子会社及び関連会社を示します。
対象読者	荏原グループに関わるすべてのステークホルダーの皆様
報告対象期間	2025年12月期（2025年1月～12月）を主たる報告対象期間としています。（対象期間と異なる場合は注釈などを入れています）
報告範囲	株式会社荏原製作所、連結子会社108社、関連会社3社及び共同支配企業1社（2025年12月31日現在）より構成される荏原グループを対象としています。掲載するデータについて集計範囲が異なる場合、都度明示しています。
発行日	2026年6月30日

将来情報に関する留意事項

本報告書で開示されているデータや将来予測は、本報告書の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本報告書記載の情報及び資料のご利用は他の方法により入手された情報とも照合し、利用者の判断によって行っていただきますようお願いします。本報告書を利用した結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

Contents

イントロダクション

創業の精神「熱と誠」編集方針 1
目次 2
荏原の事業領域とプレゼンス 3

Section 1 Essential EBARA. Everywhere. －荏原のありたい姿への道筋－

社長メッセージ 5
長期ビジョン E-Vision2035 9
中期経営計画 E-Plan2028 19
CFOメッセージ 23
事業戦略 28
精密・電子カンパニー 29
エネルギーカンパニー 33
建築・産業カンパニー 37
インフラカンパニー 41
環境カンパニー 43
新規事業 45

Section 2 Foundations for Value Creation －荏原の経営基盤－

人財戦略 49
特集 荏原グループ技術元素表 52
研究開発・知財・品質保証戦略 54
DX戦略 57
リスクマネジメント 60
コンプライアンスの推進 63
人権の尊重 64
サプライヤとの価値共創 65
気候関連への対応 66

Section 3 Governance to Value －荏原のガバナンス－

特集 ガバナンス対談 「Governance to Value」の実践 監督と執行の両輪で生み出すガバナンスの進化 68
取締役 71
取締役会の役割と構成 72
コーポレート・ガバナンス 74
執行役 86

Data

財務 10か年データ 87
ESG 8か年データ 89
企業情報／株式情報 90
IRコミュニケーション 92

荏原グループ 統合報告書2026の発行にあたって

荏原グループは、10年後のありたい姿E-Vision2035と、その実現に向けた新中期経営計画E-Plan2028を始動させました。本報告書では、本業を通じて社会・環境価値と経済価値の向上を目指す私たちの価値創造ストーリーを描いています。次なる飛躍に向けた「全体最適」の視座のもと、事業ポートフォリオの進化や規律あるキャッシュアロケーション、企業価値向上をけん引するガバナンスの実践などを、財務・非財務の統合的な視点からお伝えすることに注力しました。統合報告書発行責任者として、本報告書の作成プロセスにおいて各部門が緊密に連携し、透明かつ客観的な議論を尽くしたことを確認しております。ここに、当社の戦略と実態を正しく示す記載内容であることを表明いたします。本報告書が、ステークホルダーの皆様との実りある対話の懸け橋となることを願っております。

統合報告書発行責任者　執行役 CFO　渕田 徹也

統合報告書2026のポイント

1	長期ビジョン E-Vision2035 中期経営計画 E-Plan2028を公表 （2026年2月）	「Essential EBARA. Everywhere.」を新たなスローガンに掲げ、持続可能な社会の実現に貢献しつづける荏原の価値創造ストーリーをお伝えします。	▶ P9 ▶ P18
2	成長投資の「刈り取り」と次の成長への再投資	これまでの投資成果の刈り取りでキャッシュ創出力を強化。規律ある投資判断で次なる成長分野へ配分するキャッシュアロケーション戦略について紹介します。	▶ P7 ▶ P23
3	全体最適への転換による経営基盤の高度化	各事業の個別最適を見直しグループ全体の最適化を図るとともに、人財やDXなどの経営基盤を強化し、持続的な成長を支える当社の取り組みについて紹介します。	▶ P48 ▶ P49 ▶ P57
4	ガバナンス実効性の更なる向上 取締役会議長とCEOの対談	取締役会の実効性評価を通じた課題や、監督と執行の両輪でガバナンスのレベルを上げていく「共創」のあり方について、議長とCEOの対談をお送りします。	▶ P68 ▶ P74

Essential EBARA. Everywhere.

荏原の事業領域とプレゼンス

流体・回転機技術から始まった荏原製作所は、水・空気・エネルギー・廃棄物処理・半導体製造など人々のくらしに欠くことのできない領域で技術を磨き続け、社会の根幹を支える総合エンジニアリング企業へと成長してきました。精密・電子、エネルギー、建築・産業、インフラ、環境の5つの事業領域を擁し、世界112社・海外売上6割超の体制で、「熱と誠」の精神と「流れ」の技術を武器にあらゆる場所の課題解決に挑んでいます。Essential EBARA. Everywhere. ――なくてはならない価値を、必要とされるすべての場所へ届け続けることが、荏原の価値創造ストーリーです。

精密・電子	エネルギー	建築・産業	インフラ	環境
CMP装置、ドライ真空ポンプ	クライオジェニック製品 石油・ガスプラント向けコンプレッサ （ダウンストリーム）	標準ポンプ、冷却塔	排水ポンプが活躍する 国内排水機場等	廃棄物処理施設での 運転管理受託数
世界シェア 2位	世界 トップシェア	国内シェア No.1	1,000か所以上	80施設以上

精密・電子カンパニー

ドライ真空ポンプ

排ガス処理装置

CMP装置

めっき装置

エネルギーカンパニー

ボイラ給水ポンプ

コンプレッサ・蒸気タービン

クライオジェニック製品

建築・産業カンパニー

給水ユニット

ファン

冷凍機

インフラカンパニー

農業用ポンプ

排水ポンプ

送風機

環境カンパニー

廃棄物処理施設

バイオマス発電施設

競争し、挑戦する
人財や組織文化

コア技術による
シナジー創出力

お客様に
寄り添う姿勢

社内外連携による
原動力

ステークホルダーとの
対話で培った信頼性

事業活動を支える強みと原動力